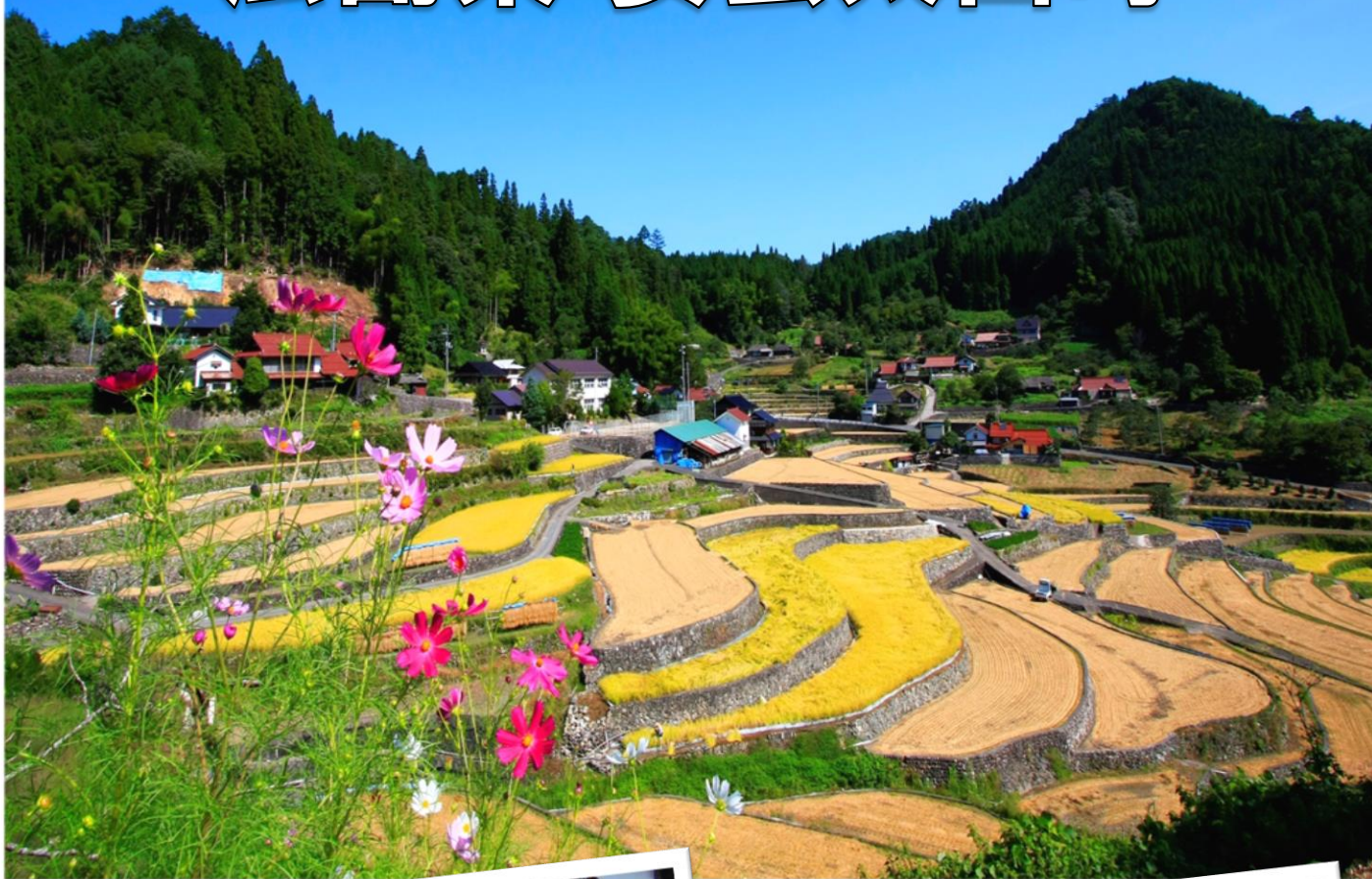


生徒良し・町民良し・社会良し を目指す!!

人情田舎体験

広島県 安芸太田町



『安芸太田町田舎体験推進協議会』

〒731-3702 広島県山県郡安芸太田町中筒賀1693-1

TEL : 0826-32-7080 FAX : 0826-32-2037

(安芸太田町役場筒賀支所 商工観光課内)

協議会概要

「西中国山地に抱かれた暮らし・交流・元気のまち」をスローガンに掲げる安芸太田町は、広島市中心部から1時間足らず、広島県の北西部に位置し、美しい山容を誇る西中国山地国定公園など豊かな自然環境に恵まれた地域です。国の特別名勝三段峡、県内最高峰の恐羅漢山、アーチ式ダムとして西日本一の高さ(156m)を誇る温井ダム、日本棚田百選に県内で唯一選ばれた井仁の棚田などの観光資源を有し、春は新緑、夏はキャンプ、秋は紅葉、冬はスキーと四季を通じて訪れる人が絶えない町です。

● 構成

町民・役場・地域商社あきおおた・商工会・漁業協同組合・森林組合・自治会・JA広島市町内諸団体・企業

● 受入体制

- 受入生徒数(160名)
【160名を超える場合は、北広島町、広島市佐伯区湯来町との共同受入(最大400名)】
- 受入家庭数93軒(令和元年10月末時点)
- 緊急体制は常駐2名のスタッフにて24時間体制
- 安全管理や危機管理の研修実施(1年に1回)



危機管理研修

● 受入状況

受入年度	国内受入	海外受入	受入者数
平成25年度	4校(関東1 関西2 九州1)	1団体	514名
平成26年度	8校(中部1 関西6 九州1)	1団体	901名
平成27年度	19校(関東4 関西9 中国3 四国1 九州2)	5団体	1,886名
平成28年度	21校(関東6 関西11 中国1 九州3)	6団体	2,317名
平成29年度	18校(関東6 中部1 関西5 中国1 九州5)	4団体	1,735名
平成30年度	22校(関東7 中部1 関西8 中国2 九州4)	5団体	2,237名
令和元年度	17校(関東5 中部1 関西6 中国1 九州4)	6団体	2,001名

安芸太田町へのアクセス

広島県北西部に位置する
日本最南端の【豪雪地帯】
広島県唯一の
山地率90%超の圧倒的な
山のまちです。



● 所要時間

バス移動

電車移動

安芸太田町

45分

平和公園

10分

広島駅

60分

新横浜駅
210分
(865km)

40分

宮島

新大阪駅
80分
(342km)

名古屋駅
150分
(528km)

東京駅
240分
(894km)

共同受入時の民泊分布

(安芸太田町 & 北広島町 & 広島市佐伯区湯来町)

3市町による共同受入体制

安芸太田町のみでの受入生徒数 『最大160名(4クラス)』
3市町の共同受入での受入生徒数 『最大400名(10クラス)』

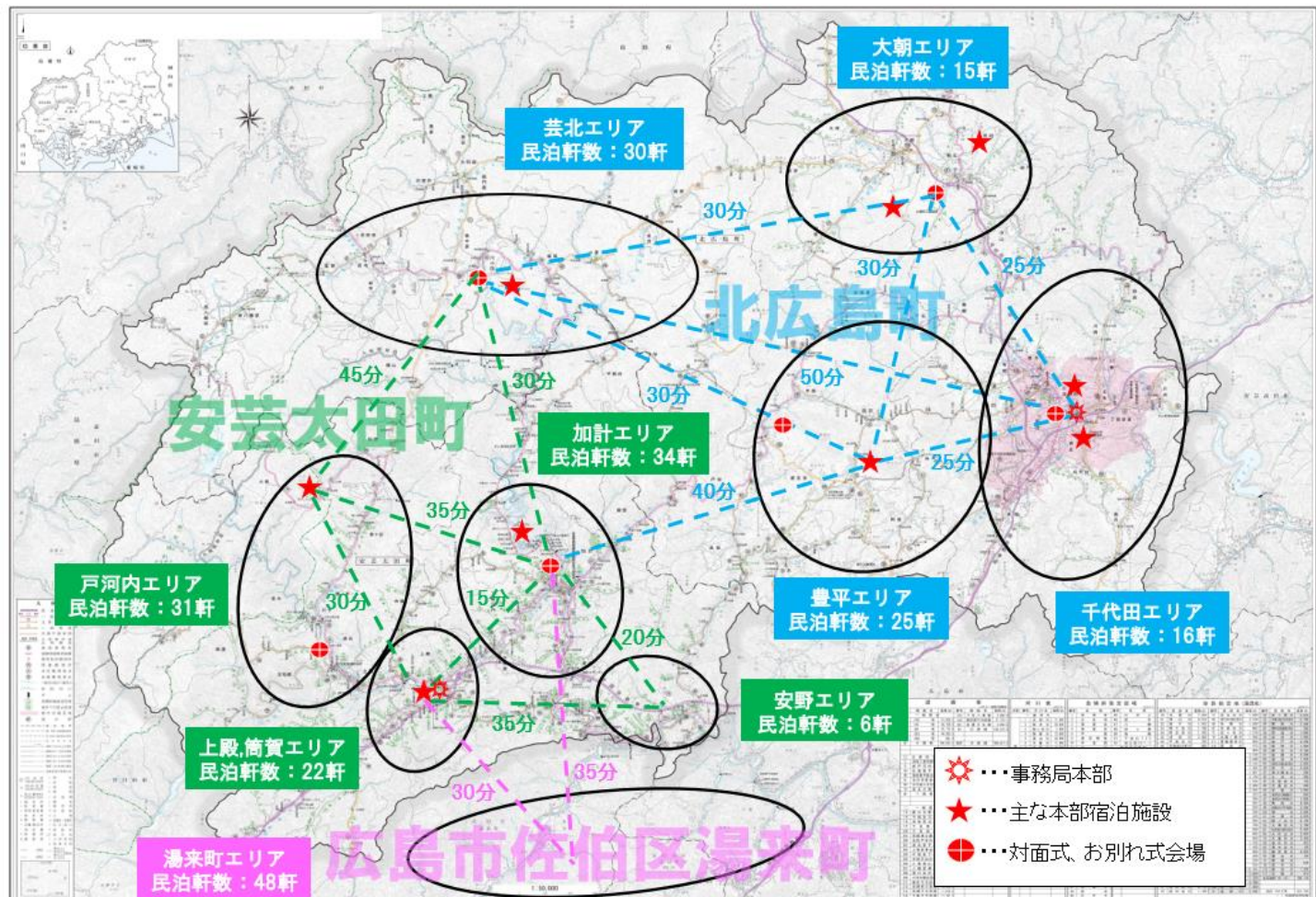
安芸太田町
(全93軒)

北広島町
(全86軒)

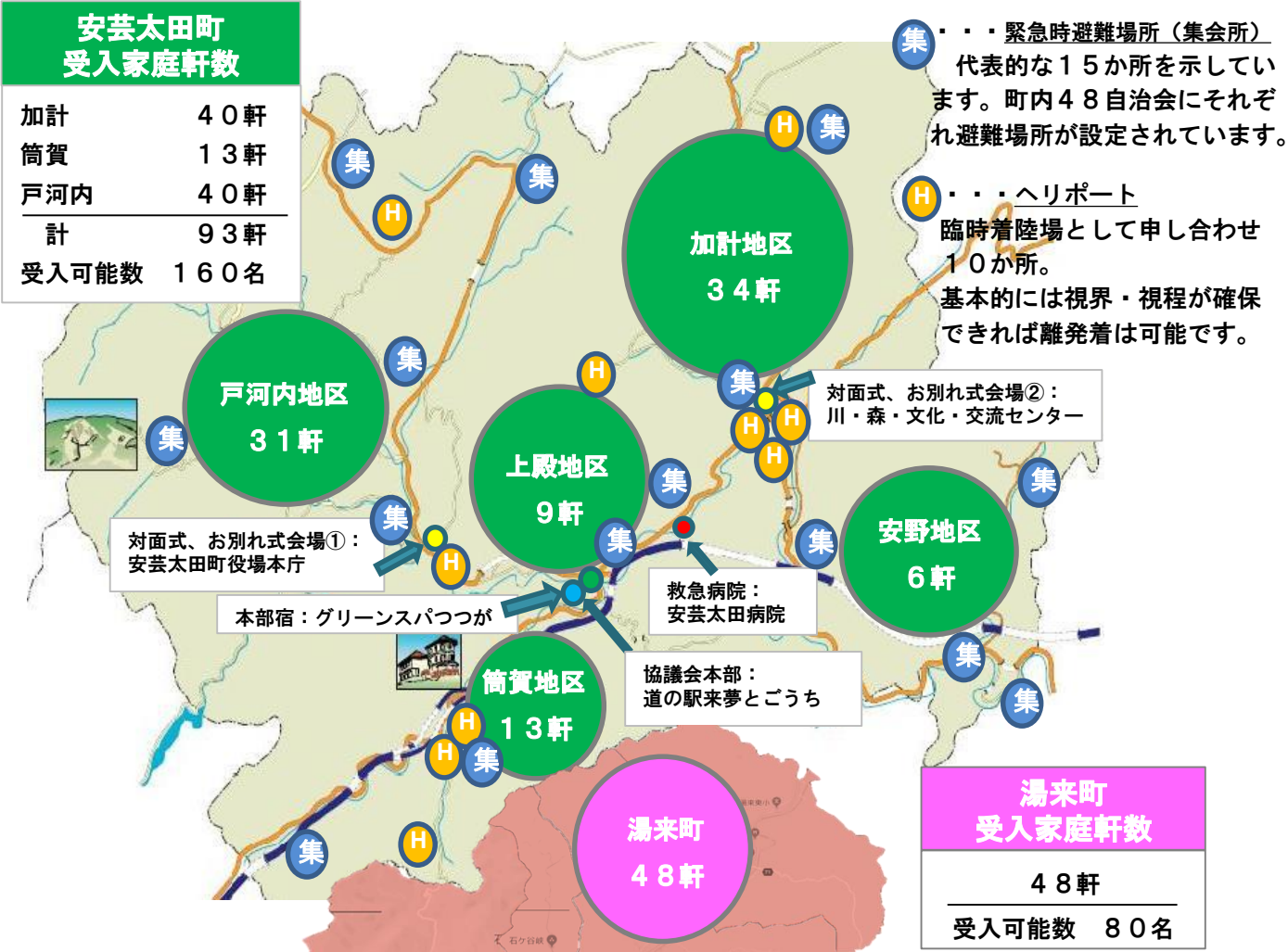
湯来町
(全48軒)

◆共同受入時の人数割りの一例
生徒数400名の場合

受入市町名	受入生徒数
安芸太田町	160名(4クラス)
北広島町	160名(4クラス)
湯来町	80名(2クラス)



民泊登録家庭、病院、ヘリポート、本部宿など分布図 (R1.10月末現在)



●移動時間について
対面、お別れ式会場および本部宿から各地区の受入家庭までの移動時間を下の表にまとめております。

	安芸太田町					広島市佐伯区 湯来町
	戸河内地区	上殿地区	筒賀地区	加計地区	安野地区	湯来地区
対面、お別れ式会場① (安芸太田町役場本庁)	3～30分	5～10分	10～15分	15～25分	30～40分	30～55分
対面、お別れ式会場② (川・森・文化・交流センター)	15～45分	10～15分	15～20分	3～15分	20～25分	35～60分
本部宿 (グリーンスパツツガ)	5～35分	5分圏内	10分圏内	5～20分	30分	25～50分

●緊急対応について
本部宿をグリーンスパツツガにいただくことで、各家庭(安芸太田町:平均15分以内、湯来町:60分以内)、緊急対応起点(安芸太田町3分、湯来町:30分)および救急病院(安芸太田町:5分、湯来町:30分)のアクセスとなり、迅速な救急対応が可能です。(スタッフが24時間対応致します。)

●巡回について
受入れ時は引率団専用車両(安芸太田町:2台、湯来町1台)を用意し、ご要望があれば巡回等にご利用いただけます。協議会職員が運転を行い、無償です。

何故今、安芸太田町なのか

①少人数による被爆体験講話を生の声で聴くことができるタイムリミットが迫っています。

『安芸太田町平和学習』
受入人数 160名



被爆者を囲み、身近に体験を聴きます。質問し、話し合い、深い学びを得ることができます。

②太田川での『ラフティング』で豊かな自然と水の恵みを体験します。

『ラフティング体験』
受入人数 160名



瀬戸内海に森の豊かな栄養分を届ける太田川の源流域で体験

③過疎・高齢化が進む日本最南端の豪雪地帯で、元気に暮らすお年寄りから生きる力と知恵を学び、温かな人情を感じます。

『雪山体験』
受入人数 160名



雪かきは冬の大切な仕事
皆で力を合わせて行います

※各体験プログラムの詳細については、別紙参照。

『人情民泊体験』
受入人数 単町160名
(合同400名)



春季おすすめ体験

ラフティング体験（太田川）

●ラフティングの概要

水しぶきを浴びながらゴムボートで川を下ります。決して急流ではない太田川は、球磨川、吉野川といったスリルを求める川ではありません。そのため、乗り合わせた全員で浅瀬を乗り越えるなど協力する必要があるため、チームワークの醸成が図れ、安全なラフティングが楽しめます。約3km下る初心者には最適の体験となります。

ラフティングの流れ

期間

4～11月

(5/26～6/6を除く)



昼食風景（やまびこホール）



着替え後、スタート地点に
出発(3階出入り口)



JR可部線 線路跡地を
徒歩移動



スタート地点（津浪）



体験風景



ゴール地点（附地）

太田川ラフティング体験会 全体図



太田川ラフティング体験会 会場図



●期待できる教育効果

- ・急流ではない太田川は、メンバー全員が協力して浅瀬を乗り越える。(チームワークづくり・一体感)
- ・リバーガイドの指示や解説を聞き、メンバーで掛け声や呼吸を合わせる。(コミュニケーション・交流)
- ・自然に潜むいろいろな危険を回避しなければいけない。(安全対策・危機管理)
- ・山村に流れる川の豊かな自然も満喫できる。(自然の理解と感謝の気持)
- ・メンバーが協力し合って成し遂げた時には気持ちも高揚する。(爽快感・達成感・リフレッシュ)

●最大160名(20艇)、3.5時間、4～11月(5/26-6/6除く)

※1 繁忙期7.8.9月は要相談

※2 ラフティングの受入は、当町にて民泊実施される学校のみ

時間	内容
0:00	着替え、ライフジャケットの装着
0:30	トイレを済ませ、出発
0:40	ラフティング会場到着 川面にて乗船練習
1:00	ラフティングスタート ↓ 川遊び ↓ 浅瀬を協力して越える
2:45	ラフティングフィニッシュ 各班で総括、バス乗車、移動
3:10	着替え施設到着
3:30	着替え終了後、施設出発

ラフティング実施不可な時期（5/26～6/6）

ラフティング体験中止時

ラフトピクニック体験

●ラフトピクニックの概要

黒部ダムに次ぐ高さを誇る「温井ダム」で山に囲まれたダム湖の豊かな自然、景色を楽しみながら対岸まで力を合わせてラフトボードを漕ぎます。またクラス別又は、班別でタイムレースと決勝レースを行います。全員で協力してボートを漕がないとまっすぐに早く進まないため、チームワークの醸成が図れます。

●期待できる教育効果

- ・メンバー全員が協力してタイムレースを行う。（チームワークづくり・一体感）
- ・リバーガイドの指示や解説を聞き、メンバーで掛け声や呼吸を合わせる。（コミュニケーション・交流）
- ・自然に潜むいろいろな危険を回避しなければいけない。（安全対策・危機管理）
- ・山に囲まれたダム湖の豊かな自然、景色を楽しむ。（自然の理解と感謝の気持ち）
- ・メンバーが協力し合って成し遂げた時には気持ちも高揚する。（爽快感・達成感・リフレッシュ）

ラフトピクニックの流れ

●最大160名（20艇）、2～3時間、4～11月

※1 繁忙期7、8、9月は要相談

※2 ラフトピクニックの受入は、**当町にて民泊実施される学校のみ**



昼食風景
（やまびこホール）



着替え後、発着地点に
出発（3階出入り口）

温井ダム ラフトピクニック
会場図



体験風景



発着地点

時間

内容

0:00 着替え、ライフジャケットの装着

0:20 トイレを済ませ、出発

0:30 ラフトピクニック会場到着

ダム湖面にて乗船練習

0:55 ラフトピクニックスタート

↓ 水遊び

↓ 班ごとでレース

2:30 ラフティングフィニッシュ

各班で総括、バス乗車、移動

2:40 着替え施設到着

3:00 着替え終了後、施設出発

あきおおた雪山体験

●期待できる教育効果

広島県最高峰の恐羅漢山を中心とした地域は、広島県内有数の豪雪地帯です。

雪景色は、美しく見えますが、雪深い地域では、助け合い、協力して厳しい冬を耐え、新緑の春を待ちます。豪雪地帯だからこそ、体験できることが沢山あります。

知恵と工夫・様々な道具を使うことで色々な体験活動ができます。特に仲間と協力して行う体験活動は、相談・役割分担など、協働意識を高める機会を提供します。

スキー・スノーボード

●概要

県内最高峰にある、100%天然雪の本格的スキー場
「恐羅漢スノーパーク」

スキー教室も充実し初心者も安心して体験して頂きます。



※体験料は税別金額で表示しております。

時間	内容
0:00	用具の装着
0:10	準備運動
0:20	インストラクターの指導で体験実施
	70分～休憩～70分
2:50	整理運動、終了

●最大160名、3時間、1-3月

スノートレッキング

●概要

スノーシューを着用して、雪原を歩きます。冬木立や雪上に残った動物たちの足跡を探索する、「アニマルトレッキング」など、冬山の自然や生態を学んで頂きます。



時間	内容
0:00	用具の装着
0:10	準備運動
0:20	インストラクター指導で体験実施
	70分～休憩～70分
2:50	整理運動、終了

●最大160名、3時間、1-3月

雪遊び

●概要

イグルー・雪だるま・アイスクリームづくり、雪合戦などの雪遊びを体験します。特にイグルーは、チームワークが大切なため仲間との協働意識を高めて頂きます。



時間	内容
0:00	準備運動
0:10	役割分担、イグルー制作
1:30	雪だるま、アイス作り
2:30	クラス対抗雪合戦
2:50	整理運動、終了

●最大160名、3時間、1-3月

通年おすすめ体験

安芸太田町平和学習

最大160名、2時間、通年、2クラス/1名の講師

●期待できる教育効果

戦後70年、記憶の風化は避けなければなりません。放射能について身近な問題となった今、広島
の原爆の歴史は大きな役割があると言えます。正しく歴史を理解し、考えることで諸外国との交流もできる
ことでしょう。自国の歴史をしっかりと学ぶことはこれからの国際人には欠かせない要素です。被爆後様
々な困難に向き合いながら力強く生きてこられた町民の方々の生の声をぜひ聴いていただきたいのです。

●被爆体験講話の様子



少人数での被爆体験講話は、心に深く響きます。

●講話に関する想い



安芸太田町原爆被害者の会

会長 堂河内 福夫 氏

昭和4年7月26日生まれ

争いを止めて平和なくらし
そして平和の喜びを学ぼう
争いは止めて楽しいくらし

●会場図



③安芸太田町役場
東館2F大集会室



④筒賀福祉センター



⑦川・森・文化・交流
センター

生徒用宿泊施設(1)・本部宿舎(1)

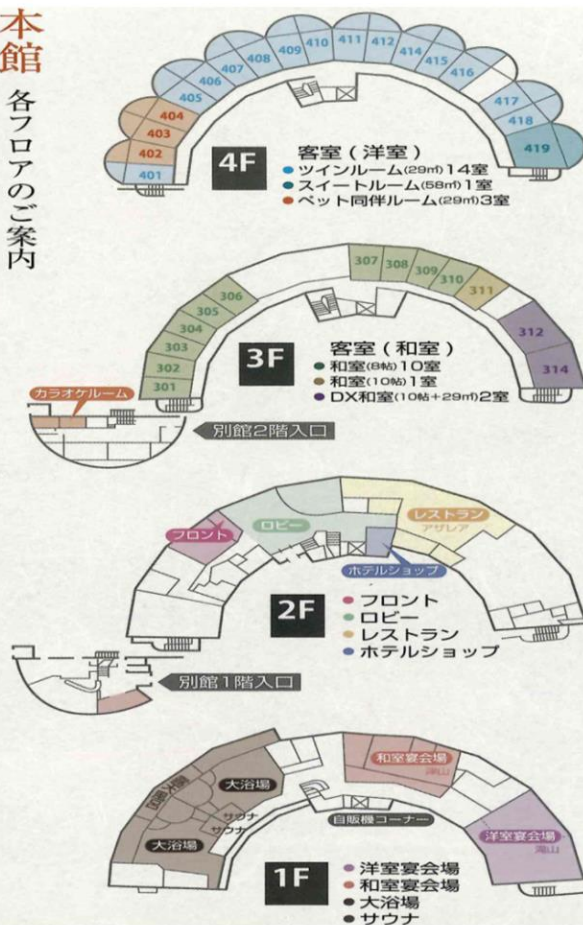
① 温井スプリングス

住所: 安芸太田町加計4692-7
電話番号: 0826-22-1200

※本部宿舎としてのご予約は、
当協議会にご用命ください。
(旅行サービス手配業取得済み)

館内図

本館
各フロアのご案内



高級感漂う
リゾートホテル



洋室
ツイン

バルコニーから眺める四季折々の瀬田湖の眺めはまさに絶景。エキストラベッドを追加できますので、3名様でもご利用可能です。ペット同伴のお部屋もご用意しています。



和洋室
(DX)

客室/定員数

3階 和室13部屋
4階 洋室18部屋
定員 109名

地産地消の旬な素材をつかった料理



浴室

男性 30名
女性 30名

生徒用宿泊施設（2）

②いこいの村ひろしま

住 所：安芸太田町松原1-1
電話番号：0826-29-0011



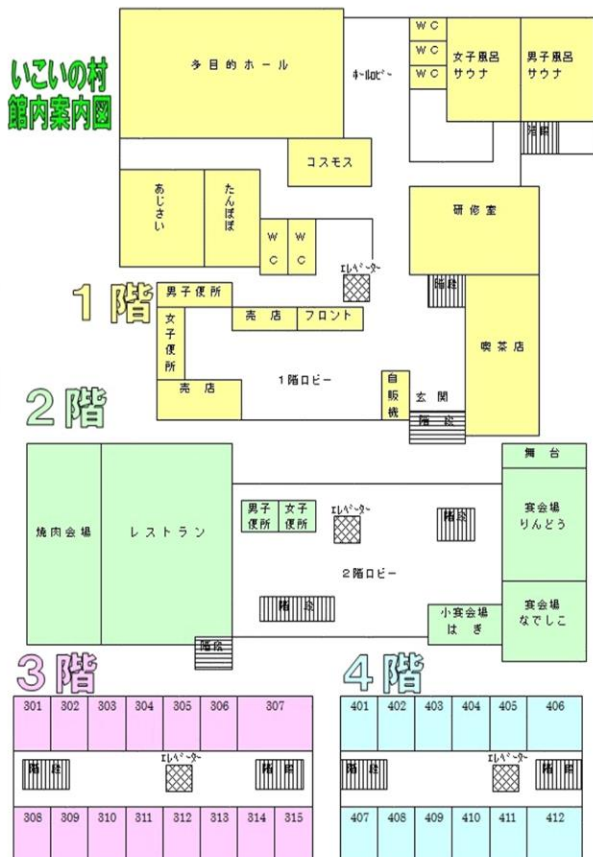
大自然の山々に
囲まれたお宿



客室／定員数

3階 和 室 14部屋
和洋室 1部屋
4階 和 室 10部屋
和洋室 1部屋
洋 室 1部屋
部屋数27 部屋定員119名

館内図



浴 室

男性 30名
女性 20名

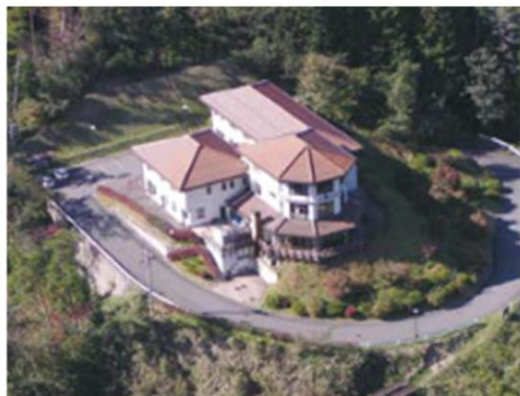
(※119名2畳定員・144名1.5畳定員)

本部宿舎(2)

① グリーンスパつつが

※ご予約は、当協議会にご用命
ください。(旅行サービス手配業取得済み)

住 所: 安芸太田町大字中筒賀280
電話番号: 0826-32-2880

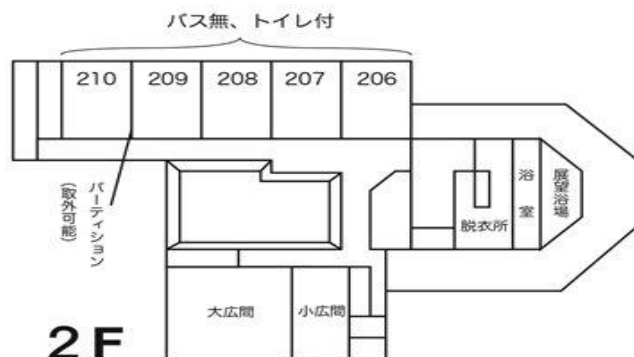
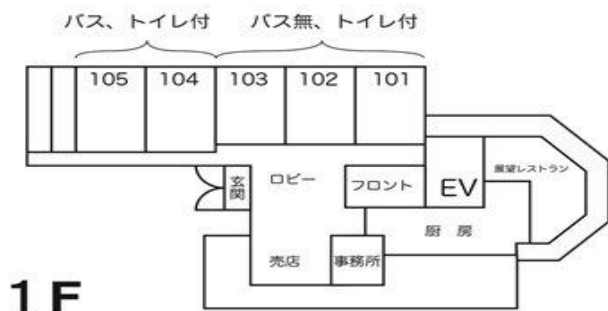


好立地

- ① 受入家庭(平均15分)
- ② 病院(5分)
- ③ 事務局本部(3分)

天然温泉

館内図



客室／定員数

1階 和室5部屋
2階 和室5部屋
定員 40名

浴室

男性 20名
女性 20名

新学習指導要領改訂に対応して 「主体的・対話的で深い学び」のために

新学習指導要領の改訂で従来からの「生きる力を育む」に加えて「主体的・対話的で深い学び」の視点から特別教育活動、とりわけ修学旅行等で、その実現に向けての期待が高まります。主体的に事前、事後学習を行うことに加え、現場での対話的な体験学習により狙いの深い学びとなります。旅行先での学習のテーマは地域事情に合致したものでなくてはなりません。地域の魅力と課題を示すことにより主体的なテーマの選択が可能となります。

魅力

①広島一、人情深く絆が強い町

町内に30以上のお寺、17の神楽団があり、町民が地域で守っている。困っている人を見ると必ず声を掛けてくる。落とし物がきちんと本人に届く。

②他に負けない自然が多い町

フランス「ブルーガイド」3つ星評価の『三段峡』をはじめとした日本百選が人口6,152名の町に7つもある。(ダム湖百選・秘境の森百選・美しい日本の村百選・日本棚田百選・森林浴の森百選・全国ランニング大会百選・日本百景)

③全国生産量第1位の柿がとれる町

全国生産量第1位の『祇園坊柿』という渋柿があり、それを使ったお土産「干し柿」・「チョコちゃん」(干し柿にチョコをコーティングしたもの)・「みんなの希望」(柿ペーストを使ったジェラート)は超絶品。

課題

①過疎高齢化がすすむ町

令和元年10月末現在で人口6,152名、高齢化率50.29%(広島県内ワースト1)、平成22年から27年の人口減少率10.8%(広島県内ワースト2)の過疎高齢化が課題となっている。

②財政状況が厳しい町

人口減少に伴う税収入等の減少やここ数年の学校建設等の大規模公共事業の実施により、財政状況が厳しいことが課題となっている。

③人手不足を抱える町

祇園坊柿の管理は他の柿と比較して難しく、手間もかかるため管理者の負担となる。この管理者も高齢化がすすみ、人手不足となっている。またお土産生産者においても同様の問題をかかえている。



～自然と人とのかかわりを体感する～ 三段峡魅力探究プログラム

SDGs取組プログラム

- 3.すべての人に健康と福祉を
- 6.安全な水とトイレを世界中に
- 15.陸の豊かさを守ろう

●概要

- (1) 三段峡は、安芸太田町を代表する観光地だが、開峡100年目を迎えた現在、観光客数はピーク時の3割程度にまで減少している。
- (2) 観光客数をピーク時に戻すために平成27年に民官学が連携し、三段峡リボン(新生)プロジェクトが始動した。
- (3) 高齢化による人材・財源不足の為、植生など峡内の情報収集が進まない、新しい視点からの魅力発掘が困難であるという課題を抱えている。
- (4) このプログラムでは、三段峡でのフィールドワークを通じ、三段峡の抱える課題解決に協力して頂くとともに、三段峡の効果的な魅力発信方法や体験プログラムを提案して頂く。

●目的と期待できる教育効果 ～多角的な視点を養う～

【すべての人に健康と福祉を】

安芸太田町は広島県で初めて森林セラピー基地に認定された。森林セラピーは、科学的な証拠に裏付けされた森林浴のこと。三段峡の豊かな自然や水を五感で体感することにより、自然の奥深さを知り、自然に感謝する心を養うとともに、心と体の健康の増進を図る。

【豊かな森の恵み：安全な水とトイレを世界中に】

太田川の上流にある三段峡。太田川の水は、水道用水として広島市を始め近隣市町に供給されている。三段峡の水の清らかさを体感するとともに、それを維持していく取組を学び、安全な水のありがたさと水を守ることの大切さを理解する。

【陸の豊かさを守ろう】

三段峡のフィールドワークを通し、三段峡の生態系の現状と課題について学ぶ。貴重な動植物が生息して人間と共生してきた歴史がある一方で、環境の変化によって動植物や人間の営みが脅かされることを知り、これからの観光と環境、動植物保護のあり方について考える。

【課題解決能力・提案力を養う】

三段峡の魅力を探り、効果的な魅力発信方法などを提案する中で、課題解決能力や提案力を養う。

- 体験人数：40～160名
- 会場：三段峡(フィールドワーク)、町内施設(事前説明・グループワーク)
- 時間：3. 5時間
- 時期：4月～11月(雨天決行 ※ただし、注意報・警報発令時は、室内でのグループワーク)
- 準備物：カッパ(雨天時用、雨傘不可)、汚れてもよい履き慣れた靴、長袖長ズボン着用、カメラ
- 事前配布資料：冊子(三段峡アウトドアミュージアム)、パンフレット、映像資料
- 安全管理について：緊急連絡用の携帯を持ったガイドが各グループに1名同行して、調査・観察を行います。



事前学習	事前配布資料から、興味を持った点について事前調査および現地で調査したい事をまとめる。	
現地調査体験	時間	内容
	0:00	三段峡 到着～トイレ・整列
	0:10～ 0:40	全体説明(30分)(オリエンテーション・注意事項・体操など)
	0:50～ 2:50	三段峡内 調査・観察(120分) ※注意報・警報発令時は町内施設でのグループワーク 例)三段峡や安芸太田町の歴史に関するプレゼン、図書館資料などを活用した疑似的な三段フィールドワークをガイドと共に予定
	2:50～ 3:20	振り返り(グループワーク)・発表・感謝状贈呈(30分)
	3:30	バス乗車～三段峡 出発
事後学習	調査・観察結果をまとめて、安芸太田町へ報告(発表)してもらう。その結果に対して当町からも生徒へフィードバックする。	

森林資源再生プロジェクト

SDGs取組プログラム

13.気候変動に具体的な対策を

14.海の豊かさを守ろう

15.陸の豊かさを守ろう

●概要

(1) 安芸太田町は、町面積の90%が森林を占めている自然そのままの町で、古くは山林の資源を生かした暮らしが地域を支えていた。

(2) 日本の林業の衰退と過疎・高齢化の影響による担い手不足により、林道や作業道などの整備が不十分となり、森林が保全ができていない。

(3) 森林の持つ水源涵養、災害防止、環境保全機能の維持のためにも森林の保全が重要である。

(4) フィールドワークをしながら森林の保水機能実験、間伐、枝打ち、植樹などの作業を行い、森林資源再生の必要性と方策性を探求する。

●目的と期待できる教育効果

【気候変動に具体的な対策を】

森は地球温暖化の原因物質である二酸化炭素を吸収する役割を果たしている。森林保全の作業を通じて自然を大切にする心を養うとともに、森林の役割について理解を深め、気候変動への対策を考える契機とする。

【海の豊かさを守ろう】

森の有機物は川から海へ流れ出し、プランクトンの発生を促して海の生態系を支えており、安芸太田町を流れる太田川は瀬戸内海に流れ込み、広島特産の牡蠣など豊かな魚介類を育てている。海の栄養分を生み出す森の力を保全する活動を通し、こうした自然の営みを理解して、その営みを守る方策を考える。

【陸の豊かさを守ろう】

日本の国土の3分の2が森林に覆われており、森は生物の生存に不可欠な水を蓄え、酸素を生み出し、生態系を維持する役割を果たしている。森林再生に取り組み、森林再生の方策を検討して守る意味や重要性を考える。

●体験人数: 40～160名

●会場: 町内山間部(フィールドワーク)、町内施設(事前説明・グループワーク)

●時間: 3時間

●時期: 4月～11月(雨天決行 ※ただし、注意報・警報発令時は、室内でのグループワーク)

●準備物: カップ(雨天時雨、雨傘不可)、汚れてもよい履き慣れた靴、長袖長ズボン着用

●事前配布資料: 森林資源に関する資料、当町観光パンフレット

●安全管理について: 緊急連絡用の携帯を持ったガイドが体験・指導を行います。



事前学習

事前配布資料から、山間地域での現状と課題を学ぶ。

現地調査 体験

時間

内容

0:00

町内山間部 到着～トイレ・整列

0:10～
0:25

全体説明(15分)(オリエンテーション・注意事項など)

0:30～
2:20

現地体験・実態調査(110分)
※注意報・警報発令時は町内施設でのグループワーク

2:20～
2:50

振り返り(グループワーク)・発表・感謝状贈呈(30分)

3:00

バス乗車～現地 出発

事後学習

体験・実態調査の結果をまとめて、安芸太田町へ報告(発表)してもらう。その結果に対して当町からも生徒へフィードバックする。